

## 意見陳述書

2017年12月22日

佐賀地方裁判所 民事部 御中

原告 上野 淑子

### 1 はじめに

佐賀県が主催し、昨年末から今年初めにかけて行われた「玄海原発の再稼働に関し広く意見を聴く委員会」で、佐賀県地域婦人連絡協議会は団体意見として、再稼働反対を述べました。

私は、佐賀県地域婦人連絡協議会の副会長、武雄市地域婦人連絡協議会の会長を務めております。佐賀県地域婦人連絡協議会は、全国地域婦人連絡協議会の会員団体であり、佐賀県内だけでも約6000人の会員がいます。本法廷でも、その約6000人が私とともにいると思って意見陳述を聞いていただきたいと思います。

### 2 佐賀県地域婦人連絡協議会の活動について

佐賀県地域婦人連絡協議会（以下では略して「婦人会」といいます。）は、「温かく住みやすい地域を守る」ことを目標として、戦後間もないころから活動をしてきました。皆様によく知られている活動としては、交通安全母の会の活動、日本赤十字奉仕団の活動、結核予防の啓発を行うなどの健康を守る婦人の会の活動、非行防止や更生をめざす人たちへの手助けなどがあります。

当会は全国組織の団体会員ですので、全国心は1つ、他県の地域婦人連絡協議会の会員ともつながりがあり、災害発生時には即連携をとり、救援物資を集めて駆け付ける支援を繰り返しています。

### 3 支援に行けた陸前高田市、行けなかった福島

2011年3月に東日本大震災が起きてから、私どもは会員に呼びかけ、大型トラックに山ほどの支援物質を積み込んで現地へ赴き、直接物資を届けてまいりました。

特に岩手県の陸前高田市には、私たちは震災直後から5回ほど支援に行きました。陸前高田市は津波被害が大きなところで亡くなられた方も多く、建物も甚大な被害を受けていました。何もかもが無茶苦茶に壊れた中、地元の婦人会の方たちと協力し合い、私たちは救援活動を行いました。地元の婦人会の方々は「あなたたちが来てくれて本当に助かった。」「婦人会のつながりがあったからこそここまでできた。頑張れた。」と涙を浮かべて感謝してくださり、私たちは手を取り合って頑張っていこ

うと言い合ったものです。支援の大切さ、人とのつながりの重要さを実感しました。

一方、私どもが行きたくても行けなかったのは福島です。東日本大震災からしばらくして、福島の第一原発事故のニュースが入ってくるようになり、放射能汚染の実情が分かってきました。放射能への恐怖、不安から、私たちは福島県への支援に行くことができませんでした。そもそも地元の婦人会のメンバーが避難によってバラバラになっていて受入れ体制が整えられないし、会員の中から福島第一原発の近くに行くことは無理との声が上がりました。婦人会の会員の中にも、放射能への不安から、福島に赴いての支援は避けたいとの雰囲気生まれて、結局、福島県をメインとした支援ツアーは実現できませんでした。

陸前高田市では、人と人とのつながりを活かして迅速な支援ができたし、それによって生きる活力を得た方々もおられたのに、福島では原発事故のために支援にすら行けない、また、地元の方々もつながりを断ち切れ、さぞかし苦しく孤独な思いをしておられるだろうと暗澹たる思いがしました。

#### 4 放射能に侵される日常生活

2012年11月、岩手県陸前高田市から南下して福島県いわき市へと至る支援ツアーに赴いた時のことです。

主な支援先は陸前高田市であり、いわき市には半日程度の滞在でしたが、いわき市内で見た光景は忘れられません。

それは、小学校の運動場です。よく晴れた青空の日でしたが、運動場に子どもの姿はありませんでした。除染未了とのことで、子ども達が外で遊ぶことが禁止されていたのです。子どもが自由に遊べない環境が不気味で、目に見えず、匂いもしない放射性物質の恐ろしさを実感したものでした。

また、除染土を詰め込んだ黒いフレコンパックが、もとは田畑であったであろう場所に累々と並べられている光景も忘れられません。これほど恐ろしいものが私たちの生活の中にあっていいものだろうかと不安を感じた者は私だけではなかったと思います。

私たちは、決して消すことのできない放射能の罪深さ、恐ろしさを実感しました。

#### 5 私たちは原発に反対する

広く意見を聴く委員会に当会が選ばれた後、当会では、県内支部の代表からなる理事十数名で、どのような意見を述べるか議論をしました。

理事の多くから、「毎日を安心、安全に暮らしたい。だから、絶対に安全とはいえない原発の再稼働は認められない。」「放射能は消すことができない。子や孫に負の財産を残してはならない。」との意見が出され、玄海原発再稼働に反対することで一致しました。理事の中には「今は電力が足りているのに、なぜ再稼働の必要性があるのか。要は電力会社の利益の問題であるのに、なぜ一般市民の安全・安心な暮らしと天秤にかけるのか。」「原発を稼働させなければ電力が不足するというならば、節電にいくらでも協力する。」との意見を述べる者もいました。

私も、原発の問題は、純粹に命の問題として考えるべきだと思います。経済性があると主張する方がおられることも知っていますが、命より大切なものはないではありませんか。そして、原発は事故を起こす可能性をなくすことはできず、また、いったん事故が起こればその影響は後世にまで及びます。

絶対に事故が起こらないと電力会社は言えますか。何を根拠に言っておられるのですか。福島事故以来、誰もが、事故がないとは信じていません。

事故が起こってからでは取り返しがつかないのである以上、大元を断たねばなりません。原発は電気を生み出す手段に過ぎないのでから、そのための犠牲を私たち国民に負わせて欲しくありません。

私たちは、自分たちの命を守るため、そしてこれからの子どもたちの命を守るため、原発は必要ないという結論です。絶対に再稼働は反対です。

以上